

---

# 令和5年度学校評価 苫小牧市立拓進小学校

---

## 1 目的

児童がよりよい教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す。

## 2 評価時期、評価方法

### (1) 前期

- ・令和5年6、7月
- ・教職員アンケート、児童アンケート

### (2) 後期

- ・令和5年11、12月
- ・教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケート

### (3) 総括

- ・令和6年2月27日（第3回学校運営協議会）

## 3 評価者

### (1) 前期

- ・教職員41名回答 ※常勤の者、道費負担教職員回答
- ・児童695名回答

### (2) 後期

- ・教職員41名回答 ※常勤の者、道費負担教職員回答
- ・児童683名回答
- ・保護者314名回答

### (3) 総括

- ・学校運営協議会委員11名承認
- ・委員から質問、感想等がなかったことから、特記事項なし

## 4 その他

### (1) 昨年度からの主な変更点

- ・青翔中学校区学校運営協議会での協議を踏まえて、設問の文言を多く変更した。
- ・設問の文言が多く変更したことから、経年で比較せず、前期、後期で比較している。

### (2) 無回答

教職員アンケートにおいて、担当者として直接児童への指導に関わらない教職員（例えば、事務職員、養護教諭等）は、無回答の場合がある。

# 設問 1

## I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

### (1) 授業改善の徹底

- 教職員「学校は、授業改善（指導方法の工夫やタブレット端末の活用など）などの学力向上に向けた取組を行っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながらない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

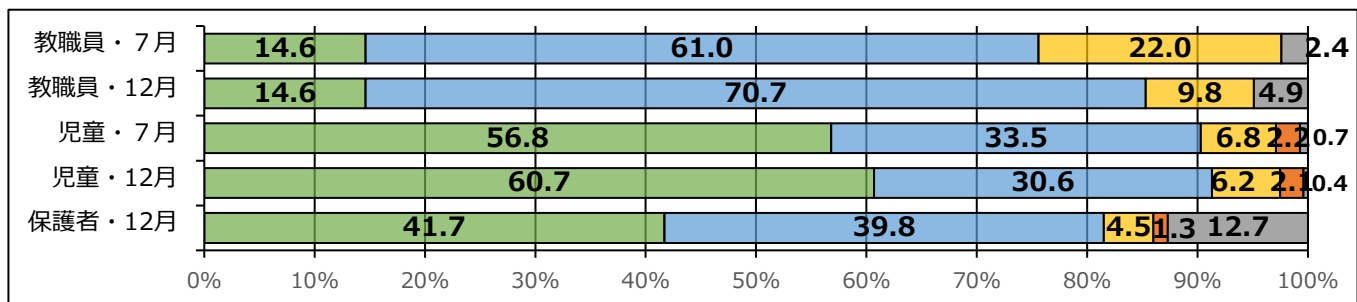
- 児童「国語と算数の授業の内容は分かるか」 ※重点取組事項の数値目標として設定

(A:分かる、B:だいたい分かる、C:あまり分からない、D:分からない、E:分からない・回答できない)

- 保護者「学校は、授業改善（指導方法の工夫やタブレット端末の活用など）などの学力向上に向けた取組を行っているか」

(A:行っている、B:どちらかというに行っている、C:どちらかというに行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	14.6	61.0	22.0	0.0	2.4	75.6
教職員・12月	14.6	70.7	9.8	0.0	4.9	85.3
児童・7月	56.8	33.5	6.8	2.2	0.7	90.3
児童・12月	60.7	30.6	6.2	2.1	0.4	91.3
保護者・12月	41.7	39.8	4.5	1.3	12.7	81.5



7月と12月を比較すると、肯定的な回答をした教職員及び児童の割合がそれぞれ高くなったことから、学力向上に向けた取組の効果がうかがえる。引き続き、指導方法の工夫やタブレット端末の活用等を推進するなどして、授業改善を図る。

### 自由記述から

#### 【成果】

※特記事項なし

#### 【課題】

①働き方改革や授業改善を推進する際に、学校全体でチームとして授業の質を高めるために、教科担任制を進める必要がある。(学校)

②インフルエンザなどで長期欠席した場合、学校で補習などがあるのか、学習進度を伝えているだけなのか。欠席した分の学習支援をどのようにしたらよいかを知りたい。(第3学年保護者)

→欠席した児童の健康状態、学習への取組状況を判断した上で、個別に対応しています。例えば、空き時間(中休み、昼休み等)を使って指導すること、タブレット端末や学習プリント等を使って学校や家庭で学習に取り組ませること、オンラインで接続して、自宅から授業に参加することなどが考えられます。児童及び保護者の意向を踏まえて、できる限りのことは実施しますので、学級担任等に相談願います。(学校)

③授業が分かりづらいようで、学習意欲が低下している。家庭でもできる限りの支援をしているが、無理強いすると学ぶこと自体を嫌いになってしまうので、悩んでいる。教員も大変だとは思いますが、児童に分かりやすい授業の工夫をしていただけるとありがたい。(第3学年保護者)

→引き続き、教員が指導したことを児童の学習状況から適切に評価し、授業改善につなげるとともに、児童が学び方を身に付け、自律的に学ぶことができるよう、指導を進めてまいります。(学校)

## 設問 2

### I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

#### (1) 授業改善の徹底

教職員「学校は、子どもの読書習慣が身に付くための取組を行っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

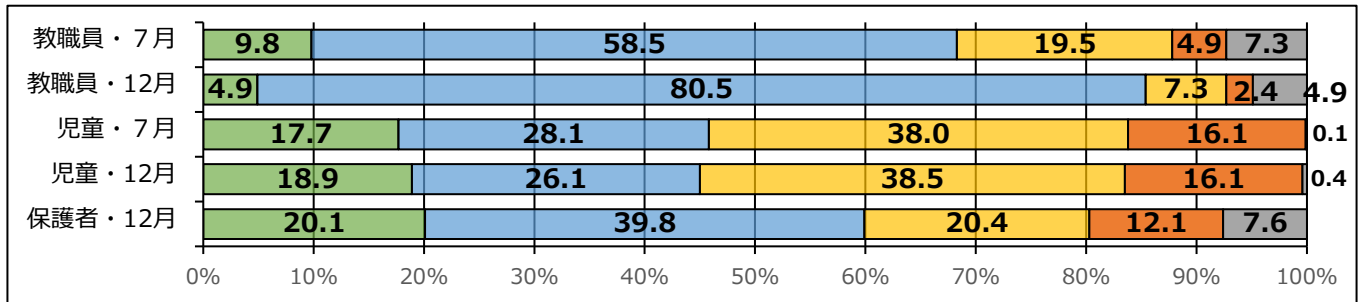
児童「授業時間以外に、1日当たりどれくらい読書をするか」(ただし、教科書や参考書、まんが、雑誌は除く)

(A:60分以上、B:30~59分、C:1~29分、D:0分、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭は、子どもの読書習慣が身に付くための取組を行っているか」

(A:行っている、B:どちらかというに行っている、C:どちらかというに行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	9.8	58.5	19.5	4.9	7.3	68.3
教職員・12月	4.9	80.5	7.3	2.4	4.9	85.4
児童・7月	17.7	28.1	38.0	16.1	0.1	45.8
児童・12月	18.9	26.1	38.5	16.1	0.4	45.0
保護者・12月	20.1	39.8	20.4	12.1	7.6	59.9



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が20ポイント程度高くなり、学校の取組を充実させることができたことがうかがえる。ただし、7、12月に肯定的な回答をした児童の割合は5割を下回り、12月に肯定的な回答をした保護者の割合は6割を下回ったことから、学校と家庭、地域が連携して、「親子読書強化月間」等の取組を通して、児童の望ましい読書習慣の確立に向けて取り組む必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

①学力検査の結果から算数の知識・技能に課題があるという結果が出ていたことから、課題となっていることについて共通理解を図った上で、授業改善や研修を進める必要がある。(学校)

②最近、子どもが学校や放課後児童クラブにあるマンガばかり読んでいるようだ。親子で一緒に図書館に行っても、マンガばかり選ぶ。内容に興味をもって読んでいるので悪くはないが、そればかりにならないように絵本や児童書を選ばせるようにしている。(第1学年保護者)

→第1、2学年国語科の読書の指導事項に、「読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること」とあります。学校においても、読書を通して、様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることができる力の育成に努めています。今後も、家庭と連携を図りながら、児童の読書活動を充実させていきたいと考えています。(学校)

### 設問 3

## I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

### (1) 授業改善の徹底

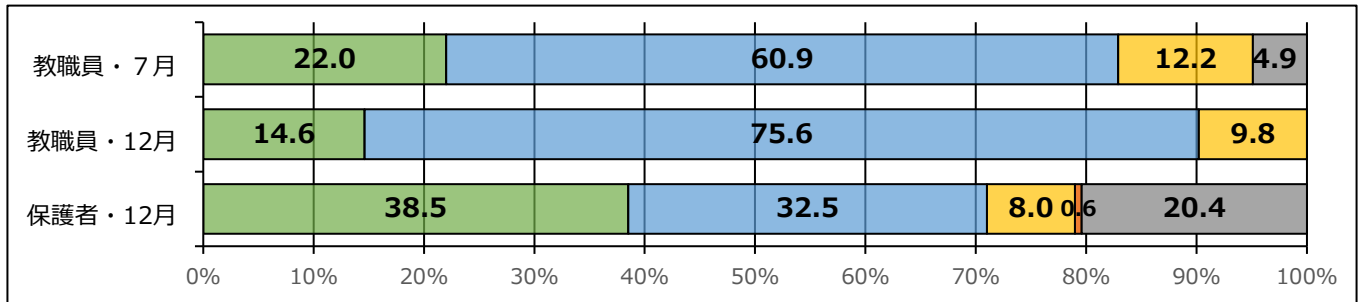
教職員「学校は、子どもの特性や発達上の課題を踏まえ、個に応じた支援を行っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

保護者「学校は、子どもの特性や発達上の課題を踏まえ、個に応じた支援を行っているか」

(A:行っている、B:どちらかというに行っている、C:どちらかというに行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	22.0	60.9	12.2	0.0	4.9	82.9
教職員・12月	14.6	75.6	9.8	0.0	0.0	90.2
保護者・12月	38.5	32.5	8.0	0.6	20.4	71.0



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が10ポイント程度高くなり、個に応じた支援を行うことができたことがうかがえる。ただし、12月に「分からない・回答できない」と回答した保護者の割合が2割を上回っていることから、学校での支援の内容や成果等を継続して周知する必要がある。

### 自由記述から

#### 【成果】

※特記事項なし

#### 【課題】

- ①「個別最適な学び」の推進と互いを認め合う学級づくりを重視し、特別支援教育支援員等のサポート体制の充実を図る必要がある。(学校)
- ②2名の支援員の配置で、全学級を支援することは難しいことから、市教委に増員するように働きかける必要がある。(学校)

## 設問 4

### I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

#### (1) 授業改善の徹底

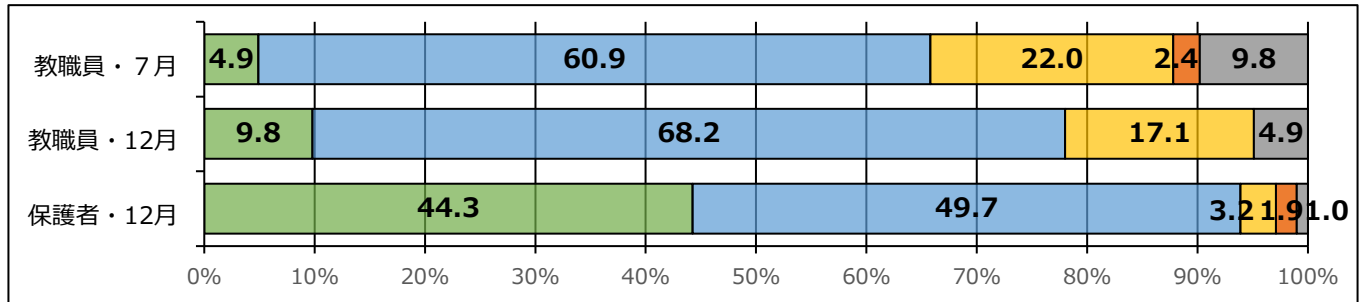
教職員「子どもは、授業を通して学んだことが身に付いているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

保護者「子どもは、授業を通して学んだことが身に付いているか」

(A:身に付いている、B:どちらかという身に付いている、C:どちらかという身に付いていない、D:身に付いていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	4.9	60.9	22.0	2.4	9.8	65.8
教職員・12月	9.8	68.2	17.1	0.0	4.9	78.0
保護者・12月	44.3	49.7	3.2	1.9	1.0	93.9



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が10ポイント程度高くなった。また、12月に肯定的な回答をした保護者の割合が9割を上回ったことから、学校の取組の成果が表れていることがうかがえる。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

①テストの点数だけが全てではないが、「B:概ね満足できる学習状況」や「C:努力を要する学習状況」と判定した児童への学力保障について、学び直しや補習、家庭学習など、家庭からの協力や地域人材の活用なども含め、不十分なところを改善する必要がある。(学校)

## 設問 5

### I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

#### (2) 家庭学習の指導の徹底

教職員「学校は、家庭と連携して望ましい家庭学習習慣の定着に取り組んでいるか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

児童「家庭学習を目標（「10分×学年+10分」）の時間以上しているか

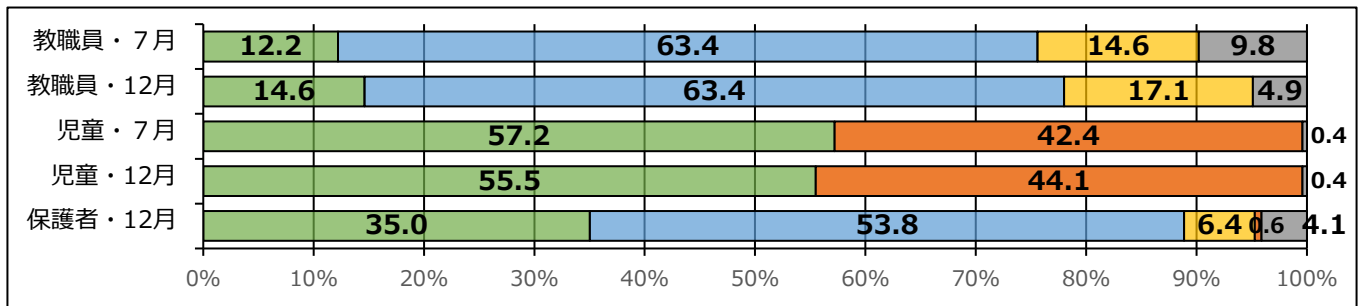
※重点取組事項の数値目標として設定

(A:している、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭は、学校と連携して望ましい家庭学習習慣の定着に取り組んでいるか」

(A:取り組んでいる、B:どちらかというに取り組んでいる、C:どちらかというに取り組んでいない、D:取り組んでいない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	12.2	63.4	14.6	0.0	9.8	75.6
教職員・12月	14.6	63.4	17.1	0.0	4.9	78.0
児童・7月	57.2			42.4	0.4	57.2
児童・12月	55.5			44.1	0.4	55.5
保護者・12月	35.0	53.8	6.4	0.6	4.1	88.9



12月に肯定的な回答をした保護者の割合が9割程度あり、学校で設定した目標の達成に向けて、家庭において家庭学習習慣の定着を図る取組が推進されたことがうかがえる。ただし、目標を達成した児童の割合が7、12月に6割を下回ったことから、引き続き、学校、家庭で連携を図りながら、児童への指導・支援を徹底する必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

①家庭学習は子ども自身や家庭が主体となって行うもので、学校の役割は目的や取り組む内容について周知し、家庭と連携して学習意欲の向上を図ることが大切であることから、宿題は減らす又はなくし、家庭学習カード等を通して、児童が家庭学習の目標を設定したり、取組状況を確認したりするなどの取組を進める必要がある。(学校)

②他の学年でもそうだが、家庭で丸付けを行うのであれば、宿題に解答を加えて配付してほしい。特に、高学年の子どもがおり、働いている保護者は、正しい解答を導き、教えることはかなり困難であるし、時間がかかり負担になると思う。他校では配付されている学校があると聞いたことから、拓進小学校でも解答の配付をお願いしたい。

(第3学年保護者)

→児童及び保護者への過度の負担にならないこと、家庭学習の取組の効果を高めることを考慮して、検討した上で改善を図ってまいります。(学校)

## 設問 6

### Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

#### (3) 不登校・いじめ問題への対応

教職員「学校は、子どもが学校内外のきまりを守って生活できるよう指導しているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

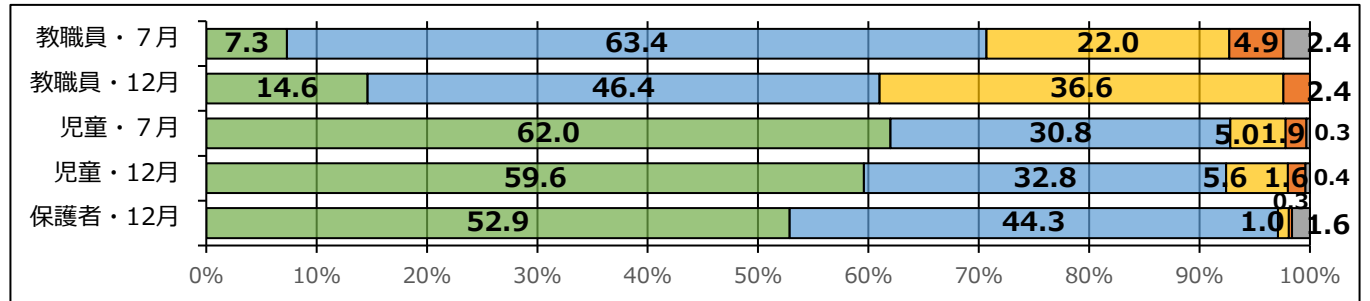
児童「学校のきまりや家での約束を守って生活しているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭は、子どもが家庭での約束を守って生活できるよう指導しているか」

(A:指導している、B:どちらかという指導している、C:どちらかという指導していない、D:指導していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	7.3	63.4	22.0	4.9	2.4	70.7
教職員・12月	14.6	46.4	36.6	2.4	0.0	61.0
児童・7月	62.0	30.8	5.0	1.9	0.3	92.8
児童・12月	59.6	32.8	5.6	1.6	0.4	92.4
保護者・12月	52.9	44.3	1.0	0.3	1.6	97.1



7、12月に肯定的な回答をした児童及び保護者の割合が9割を上回った。一方で、7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が10ポイント程度下回った。学校での指導が徹底されていないことがうかがえることから、改善を図る必要がある。

#### 自由記述から

【成果】

※特記事項なし

【課題】

※特記事項なし



## 設問7

### Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

#### (3) 不登校・いじめ問題への対応

- 教職員「学校は、子どもの悩みや問題に適切に対応し、いじめや不登校の未然防止と早期対応に努めているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

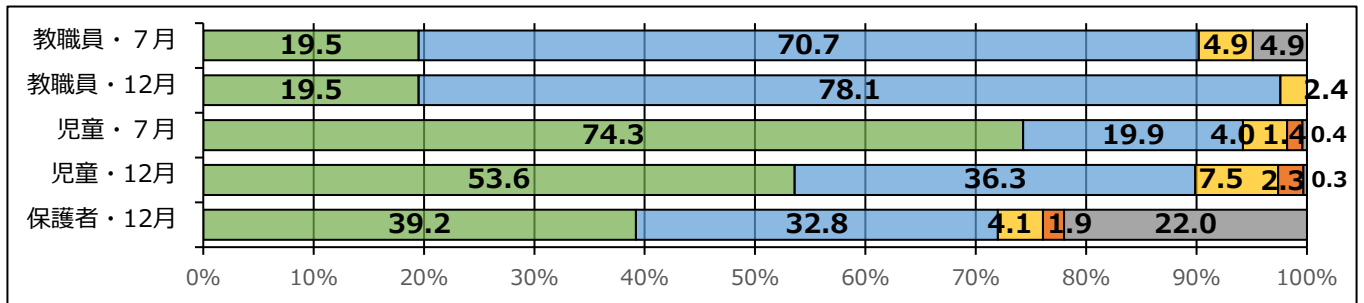
- 児童「先生は、自分が困ったりなやんだりしているときに、相談に乗ってくれるか」

(A:相談に乗ってくれる、B:どちらかといえば相談に乗ってくれる、C:どちらかといえば相談に乗ってくれない、D:相談に乗ってくれない)

- 保護者「学校は、子どもの悩みや問題に適切に対応し、いじめや不登校の未然防止と早期対応に努めているか」

(A:努めている、B:どちらかというとならしている、C:どちらかというとならしていない、D:努めていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	19.5	70.7	4.9	0.0	4.9	90.2
教職員・12月	19.5	78.1	2.4	0.0	0.0	97.6
児童・7月	74.3	19.9	4.0	1.4	0.4	94.2
児童・12月	53.6	36.3	7.5	2.3	0.3	89.9
保護者・12月	39.2	32.8	4.1	1.9	22.0	72.0



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が10ポイント程度高くなったものの、12月に肯定的な回答をした児童の割合は教職員と反対に5ポイント程度低くなった。相談等を必要としている児童に対応して、適切に対応できていないことあったと考えられることから、学校において、児童が相談しやすい雰囲気醸成し、早期に適切に対応できるよう努める必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

- ① 今後もいじめの把握のためのアンケート調査を継続し、児童から話を聞く機会を設定してほしい。(第4学年保護者)

→「学校いじめ防止基本方針」を踏まえて、「嫌な思いをしている」児童からの訴えに耳を傾け、適切に対応してまいります。(学校)

##### 【課題】

- ① いじめの対応について、関係児童からより丁寧な聞き取りや指導ができるよう、教育相談の時間を十分確保する必要がある。(学校)

- ② 学級担任に伝えているが、同級生との問題について、早急に解決していただきたい。(第4学年保護者)

→指導を継続しているところです。今後も、望ましい人間関係を築くことができるよう、保護者と連携を図りながら進めてまいります。(学校)

- ③ いじめ問題があり、複数の児童に追いかけられ、暴言を吐かれたり、「いじめてやる」と言われたりすることがあったが、教師が問題に対して向き合わない。(第4学年保護者)

→ご心配をかけて申し訳ありません。保護者にお伝えしたように、被害児童及び加害児童から事実確認をし、それぞれに指導及び支援を行っております。今後も、継続して見守ってまいります。(学校)



## 設問 8

### Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

#### (3) 不登校・いじめ問題への対応

教職員「学校や家庭での指導を通して、子どもに思いやりの気持ちが育っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながらない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

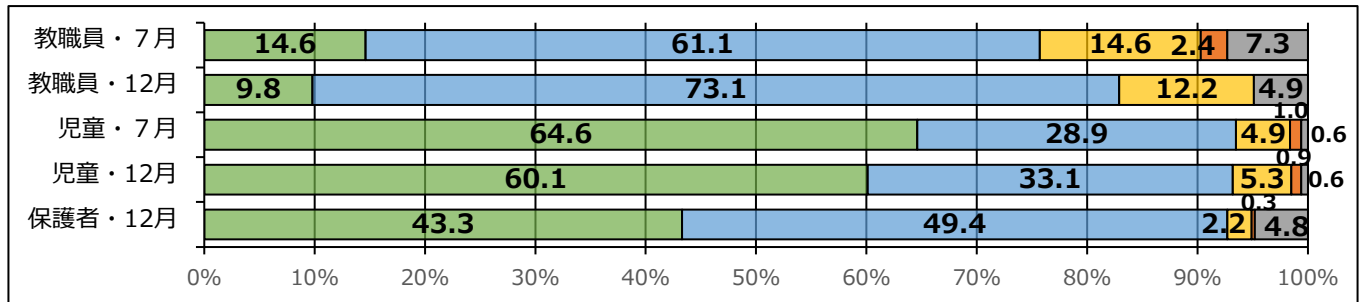
児童「思いやりをもって、人に優しく接しているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「学校や家庭での指導を通して、子どもに思いやりの気持ちが育っているか」

(A:育っている、B:どちらかというくと育っている、C:どちらかというくと育っていない、D:育っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	14.6	61.1	14.6	2.4	7.3	75.7
教職員・12月	9.8	73.1	12.2	0.0	4.9	82.9
児童・7月	64.6	28.9	4.9	1.0	0.6	93.5
児童・12月	60.1	33.1	5.3	0.9	0.6	93.2
保護者・12月	43.3	49.4	2.2	0.3	4.8	92.7



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が5ポイント以上高くなった。また、7、12月に肯定的な回答をした児童の割合がそれぞれ9割を上回るとともに、12月に肯定的な回答をした保護者の割合が9割を上回ったことから、学校や家庭での取組の成果が表れていることがうかがえる。引き続き、学校と家庭が連携して、思いやりをもって、人と優しく接することができる児童の育成に努める。

#### 自由記述から

【成果】

※特記事項なし

【課題】

※特記事項なし

## 設問 9

### Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

#### (3) 不登校・いじめ問題への対応

教職員「学校は、子どもが楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努めているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

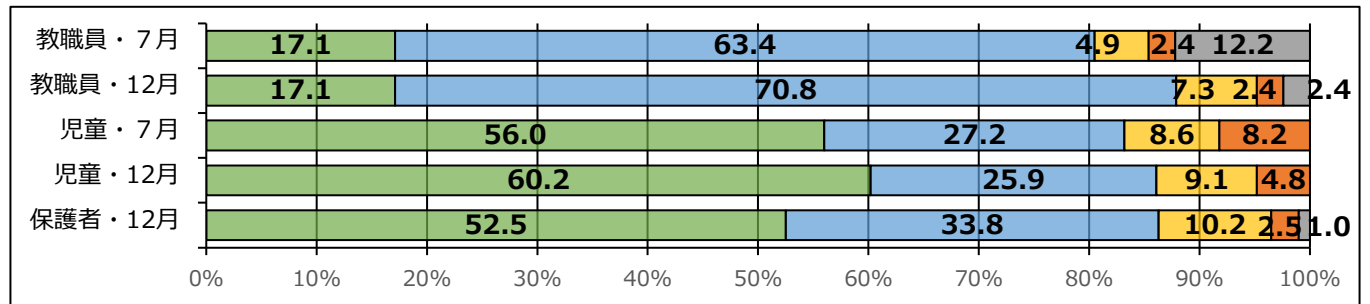
児童「学校は楽しいか」 ※重点取組事項の数値目標として設定

(A:楽しい、B:どちらかといえば楽しい、C:どちらかといえば楽しくない、D:楽しくない、E:分からない・回答できない)

保護者「子どもは学校生活を楽しく送っているか」

(A:そう思う、B:どちらかというと思う、C:どちらかというと思うわない、D:そう思わない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	17.1	63.4	4.9	2.4	12.2	80.5
教職員・12月	17.1	70.8	7.3	2.4	2.4	87.8
児童・7月	56.0	27.2	8.6	8.2	0.0	83.2
児童・12月	60.2	25.9	9.1	4.8	0.0	86.1
保護者・12月	52.5	33.8	10.2	2.5	1.0	86.3



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員及び児童の割合が5ポイント以上高くなったことから、取組の成果が表れていることがうかがえる。一方で、7、12月に肯定的でない回答をした児童及び保護者が1割以上いたことから、楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに向けて、児童及び保護者のニーズを踏まえながら工夫・改善する必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

①拓進小学校で、楽しそうに生活してるので安心している。(第4、6学年保護者)

→ありがとうございます。今後も、楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、指導及び支援に努めてまいります。(学校)

②子どもが学校に行きたがらなかったとき、学級担任から電話があり、すぐに適切に対応してくれて大変助かった。感謝している。(第4学年保護者)

→ありがとうございます。今後も、早期対応するように努めてまいります。(学校)

##### 【課題】

※特記事項なし

## 設問10

### Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

#### (3) 不登校・いじめ問題への対応

教職員「学校での指導を通して、子どもは進んであいさつをしているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

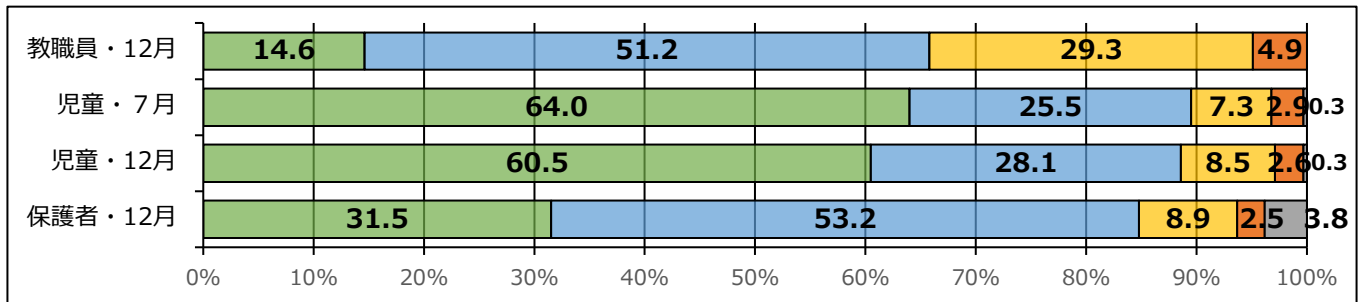
児童「学校や家、地域で、自分から進んであいさつをしているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭での指導を通して、子どもは進んであいさつをしているか」

(A:している、B:どちらかというとしている、C:どちらかというとしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・12月	14.6	51.2	29.3	4.9	0.0	65.8
児童・7月	64.0	25.5	7.3	2.9	0.3	89.5
児童・12月	60.5	28.1	8.5	2.6	0.3	88.6
保護者・12月	31.5	53.2	8.9	2.5	3.8	84.7



7、12月に肯定的な回答をした児童の割合が9割程度だったが、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が7割を下回っており、児童と教職員の間には大きな差が見られる。教職員と児童、保護者であいさつの仕方について共通理解を図り、連携して取り組む必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

①子どもが主体となった「あいさつ運動」や学校運営協議会等によるエリアでの「あいさつ運動」が活発に行われるように働きかける必要がある。(学校)

教職員が指導はしているものの、あいさつを返す児童が少ないと感じることから、児童会が主体となった活動を推進するなどして、児童が主体的にあいさつしようとする意識を育てる必要がある。(学校)

児童は、自分と関わりのある教職員にあいさつをするが、そうでない教職員にはあいさつをしない傾向がある。職員室内での教職員同士の出勤退勤時のあいさつがないことがうかがえることから、教職員が児童に範を示すために、改善する必要がある。(学校)

# 設問11

## Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

### (3) 不登校・いじめ問題への対応

教職員「学校は、道徳の授業や日常的な指導を通して、道徳教育の充実を図っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

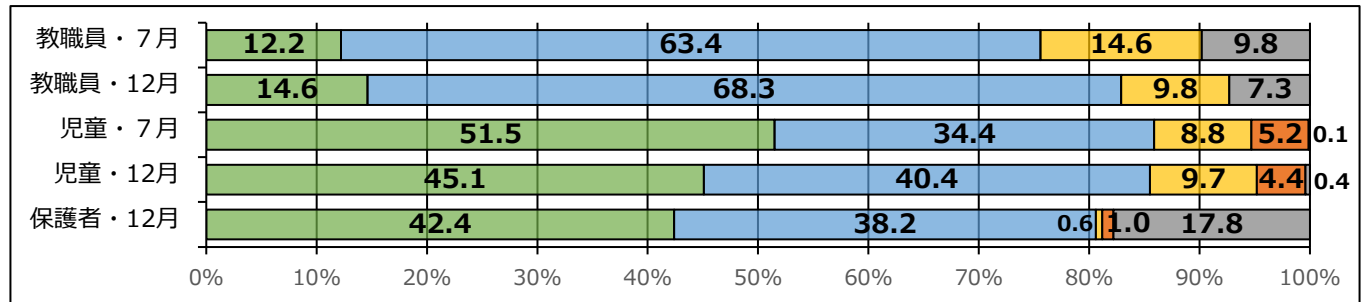
児童「道徳の授業で考えたことを学校や普段の生活に生かしているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「学校は、道徳の授業や日常的な指導を通して、道徳教育の充実を図っているか」

(A:図っている、B:どちらかという図っている、C:どちらかという図っていない、D:図っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	12.2	63.4	14.6	0.0	9.8	75.6
教職員・12月	14.6	68.3	9.8	0.0	7.3	82.9
児童・7月	51.5	34.4	8.8	5.2	0.1	85.9
児童・12月	45.1	40.4	9.7	4.4	0.4	85.5
保護者・12月	42.4	38.2	0.6	1.0	17.8	80.6



12月に肯定的な回答をした教職員、児童、保護者の割合がそれぞれ8割を上回った。一方で、7、12月に肯定的でない回答をした教職員及び児童がそれぞれ1割以上いたことから、日常的な指導を通して、児童が「実践したい」と思えるよう、改善を図る必要がある。また、12月に「分からない・回答できない」と回答した保護者の割合が2割程度いたことから、引き続き、道徳教育に係る情報提供を積極的に行う必要がある。

### 自由記述から

#### 【成果】

①先日、下校途中に問題があった際に、学級担任がその日のうちにすぐ対応してくれた。そのおかげで、子どもは後に引きずることなく、現在まで安心して過ごすことができ、とても感謝している。(第5学年保護者)  
→ありがとうございます。今後も、児童及び保護者が困っている際に、迅速に対応できるように努めてまいります。(学校)

#### 【課題】

①「道徳の日」を生かして、児童の課題となっていることや、学校の取組、授業内容等について、保護者や地域に周知するなど、連携の在り方を工夫する必要がある。(学校)

## 設問12

### Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組

#### (4) 基本的な生活習慣の確立・運動の日常化

教職員「学校は、基本的な生活習慣が身に付くように指導を行っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

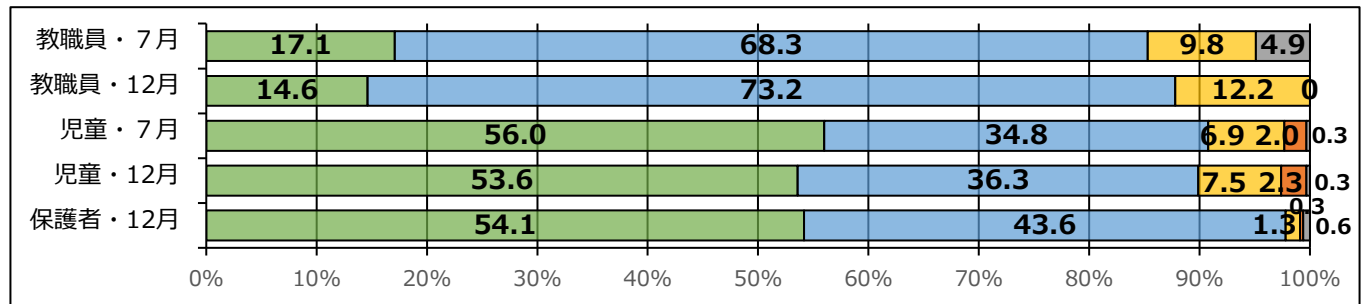
児童「学校や家で規則正しい生活をしているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭は、基本的な生活習慣が身に付くように指導を行っているか」

(A:行っている、B:どちらかというも行っている、C:どちらかというも行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	17.1	68.3	9.8	0.0	4.9	85.4
教職員・12月	14.6	73.2	12.2	0.0	0.0	87.8
児童・7月	56.0	34.8	6.9	2.0	0.3	90.8
児童・12月	53.6	36.3	7.5	2.3	0.3	89.9
保護者・12月	54.1	43.6	1.3	0.3	0.6	97.8



7、12月に肯定的な回答をした教職員及び児童の割合がそれぞれ9割程度だったことから、学校の取組に対して成果を上げていることがうかがえる。また、12月に肯定的な回答をした保護者の割合が10割近くあり、家庭での指導が徹底されている状況がうかがえる。

#### 自由記述から

【成果】

※特記事項なし

【課題】

①基本的な生活習慣、あいさつ、決まりなどの指導はしているが、児童になかなか身に付いていないように思われることから、学校組織として、教職員がより統一した指導を徹底するように意識を高める必要がある。(学校)

## 設問13

### Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組

#### (4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

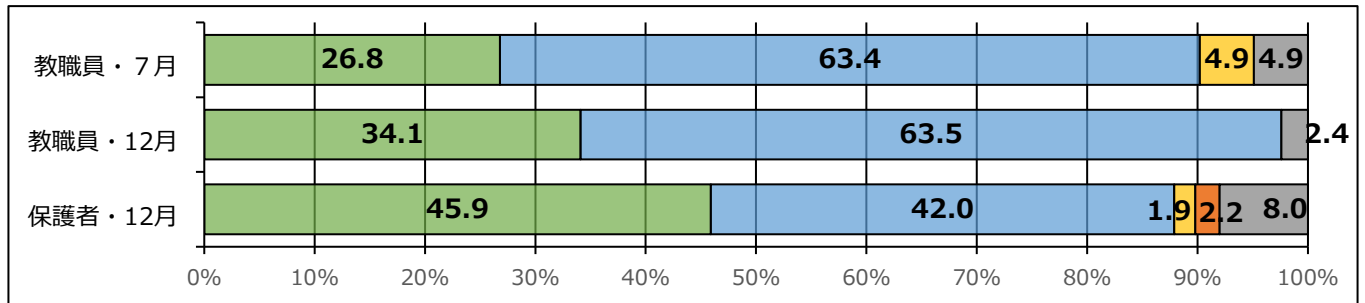
教職員「学校は、登下校の安全や災害、学校事故等の防止に適切に対応しているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

保護者「学校は、登下校の安全や災害、学校事故等の防止に適切に対応しているか」

(A:対応している、B:どちらかというに対応している、C:どちらかというに対応していない、D:対応していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	26.8	63.4	4.9	0.0	4.9	90.2
教職員・12月	34.1	63.5	0.0	0.0	2.4	97.6
保護者・12月	45.9	42.0	1.9	2.2	8.0	87.9



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が5ポイント以上高くなり、適切に対応している状況がうかがえる。また、12月に肯定的な回答をした保護者の割合が9割程度あり、学校の対応に対して、概ね高く評価していることがうかがえる。

## 自由記述から

### 【成果】

※特記事項なし

### 【課題】

- ① 拓進小学校「危機管理マニュアル」の整備と共通理解の推進を一層図る必要がある。(学校)
- ② 夏、学校内が暑いことから、扇風機を各学級に配置してほしい。(第1学年保護者) (第2学年保護者)  
暑い夏でも児童が涼しい環境で学習できるよう、エアコンの設置をお願いしたい。ただし、スポットクーラーは部分的にしか涼しくならないと思う。(第3学年保護者)  
夏の間、教室内が暑いと数名から聞いた。扇風機がないようだったので、学習環境として健康面でとても心配になったことから、エアコンの設置を希望する。(第5学年保護者)  
→ご心配をおかけしましたが、今年度当初から予算要望をしていた扇風機が、昨年秋頃、各教室に配置され、現在稼働しています。また、冷房については、来年度夏までに、スポットクーラーが設置される予定ですので、今年度の夏と比べて、教室環境の改善が図られる予定です。ただし、備え付けのエアコンは、現在のところ設置される見通しはありません。学校として、市教委等に要望していきたいと考えております。(学校)
- ③ 持ち物として記載のあった千枚通し(穴を空ける道具)を子どもに持たせたが、「危険だから」という理由で学級担任が穴を空けていたようだった。子どもに千枚通しを持たせるのは危険だと思ったが、ないと困ると考え購入し持たせたが、児童が使用しないのであれば、持ち物として持たせる意味が感じられなかった。学校で、危険予測や準備が不十分なところ見られ、不快な思いをすることが多くあったので、改善していただきたい。(第2学年保護者)  
→大変申し訳ありませんでした。原則として、カッター等の刃物を使用するときは、学校にあるものを貸し出し、学校でしっかり管理した上で事故等のないようにしています。今回、児童が計画書を作成した際に、学級担任が確認し、「危険だから持たせないこと」「学校のものを貸し出すこと」などを伝えるとよかったのですが、漏れ落ちていたようです。今後は、このようなことがないように、教職員で改めて確認したところです。(学校)



## 設問14

### Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組

#### (4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

教職員「学校は、子どもが交通ルールやマナーを守れるよう、指導しているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

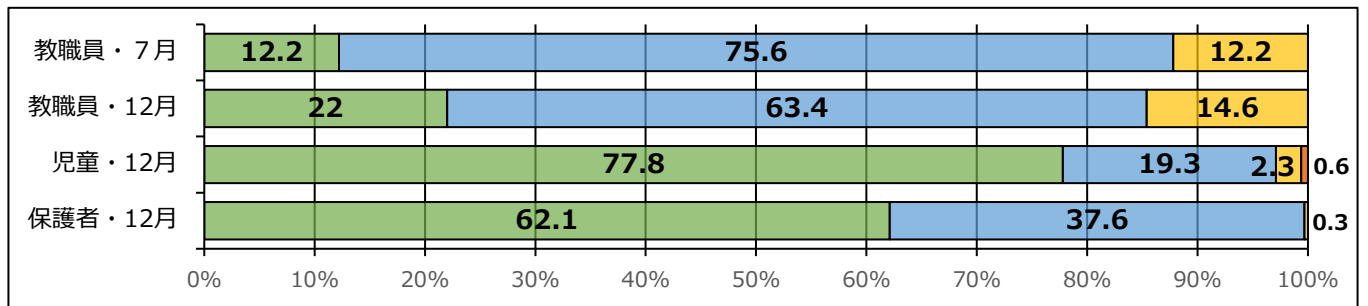
児童「交通ルールやマナーを守って生活しているか」

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「家庭は、子どもが交通ルールやマナーを守れるよう指導しているか」

(A:指導している、B:どちらかという指導している、C:どちらかという指導していない、D:指導していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	12.2	75.6	12.2	0.0	0.0	87.8
教職員・12月	22.0	63.4	14.6	0.0	0.0	85.4
児童・12月	77.8	19.3	2.3	0.6	0.0	97.1
保護者・12月	62.1	37.6	0.3	0.0	0.0	99.7



12月に肯定的な回答をした児童及び保護者の割合が10割近くあった。一方で、「交通ルールやマナーを守れていない児童がいる」と地域から学校へ情報提供があったことから、12月に肯定的でない回答をした教職員の割合が1割以上あった。今後、学校と家庭、地域が連携を図りながら、児童が交通ルールやマナーを守れるよう、指導を徹底する必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

①登下校時や放課後に、通学路でなく、横断歩道のない十字路を横断している児童がいて、時々、クラクションを鳴らされているのを見かける。また、道路を挟んで児童が会話をしたり、押し合いをして道路に飛び出た児童を自動車避けたりしている様子が見られる。(第3学年保護者)

自動車が走っているかどうかの確認を全くせず、横断歩道や道路を横断する児童が多い。また、横断歩道等を渡るのか、渡らないのかが分かりにくかったり、車道付近でふざけ合ったりしているのを見ると非常に危ないと思う。(第6学年保護者)

→学校で継続して指導をしているところですが、地域の方々から上記のような児童の安全に関わって危惧される報告がよくあります。今後も、学校、家庭、地域のそれぞれの立場から粘り強く指導をしていきたいと考えています。(学校)



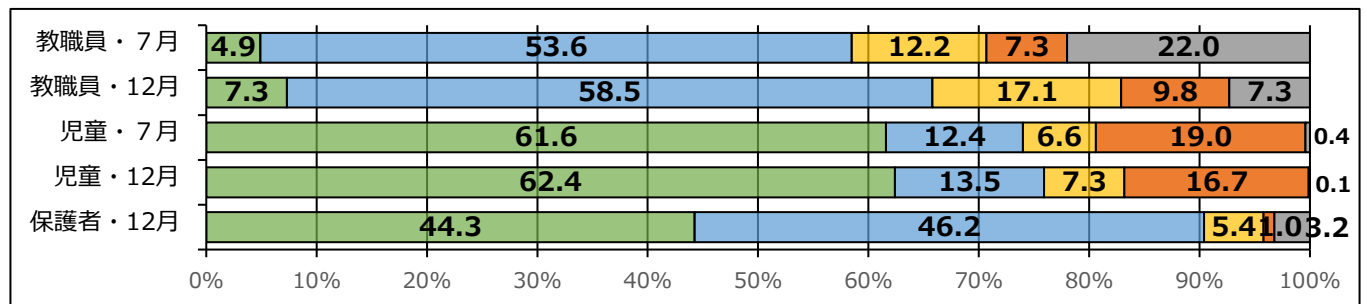
## 設問15

### Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組

#### (4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- 教職員「学校は、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使用について家庭での約束を決めるような働きかけや子どもたちの情報モラルの向上に努めているか」  
 (A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- 児童「携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、テレビゲームの使い方について家の人と約束を決めて守っているか」  
 (A:約束を決めて守っている、B:約束を決めているが、守れていない、C:約束を決めていないが、今後決める予定である、D:約束を決めていないし、今後決める予定はない、E:分からない・回答できない)
- 保護者「家庭は、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使用について家庭での約束を決め、子どもたちの情報モラルの向上に努めているか」  
 (A:努めている、B:どちらかというとならしている、C:努めていない、D:努めていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	4.9	53.6	12.2	7.3	22.0	58.5
教職員・12月	7.3	58.5	17.1	9.8	7.3	65.8
児童・7月	61.6	12.4	6.6	19.0	0.4	74.0
児童・12月	62.4	13.5	7.3	16.7	0.1	75.9
保護者・12月	44.3	46.2	5.4	1.0	3.2	90.4



12月に「約束を決めている」に回答した保護者の割合と児童の割合に15ポイント程度差が見られる。保護者と児童で約束が共有されていない可能性があることから、児童と保護者で約束を確認し守ることができるよう、学校からも継続して働きかける必要がある。

#### 自由記述から

##### 【成果】

※特記事項なし

##### 【課題】

① 文書や学級懇談等で、実際にあったトラブルの事例を取り上げ、実際にあったトラブルの事例を取り上げるなどして、情報モラルの向上に取り組む必要がある。(学校)

児童のスマートフォンの扱い方についての指導は大切であることから、保護者がしっかり管理してもらうよう依頼し、大きなトラブルに発展することのないようにする必要がある。(学校)

児童のスマートフォンの使い方が心配であることから、児童に指導を徹底するとともに、保護者に危機感をもって対応してもらうよう働きかける必要がある。(学校)

## 設問16

### Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組

#### (4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

教職員「学校は、体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

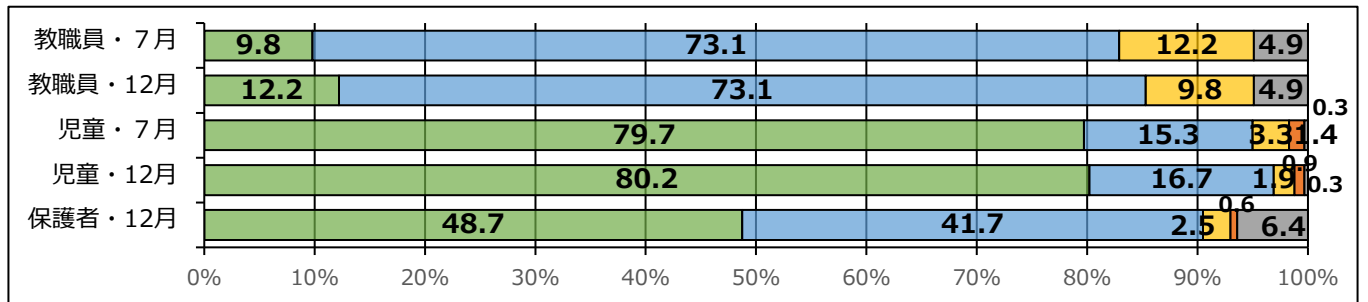
児童「体育の授業でたくさん運動しているか」 ※重点取組事項の数値目標として設定

(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

保護者「学校は、体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っているか」

(A:図っている、B:どちらかという図っている、C:どちらかという図っていない、D:図っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	9.8	73.1	12.2	0.0	4.9	82.9
教職員・12月	12.2	73.1	9.8	0.0	4.9	85.3
児童・7月	79.7	15.3	3.3	1.4	0.3	95.0
児童・12月	80.2	16.7	1.9	0.9	0.3	96.9
保護者・12月	48.7	41.7	2.5	0.6	6.4	90.4



12月に肯定的な回答をした教職員の割合が8割以上あり、取組の成果が概ね表れていたことがうかがえる。また、12月に肯定的な回答をした児童及び保護者の割合がそれぞれ9割を上回ったことから、体力向上に向けた取組を高く評価してもらえたことがうかがえる。

#### 自由記述から

【成果】

※特記事項なし

【課題】

- ①体力向上に向けて、児童の運動する意欲を高める場づくり、支援体制、強化月間及び週間の設定など、持続可能なものがあれば積極的に取り組む必要がある。(学校)
- ②運動会の種目をコロナ禍前のように増やしてほしい。選抜リレーなど、運動が得意な子が活躍できる種目を実施してほしい。(第2学年保護者) (第4学年保護者)  
感動する競技であったことから、運動会で全学年が参加するリレーを実施してほしい。(第3学年保護者)  
→運動会の種目については、運動会のねらいを踏まえて決定しています。今後、運動会のねらいを達成するために、全員リレーや選抜リレーを採用する必要があると考えた場合は、検討してまいります。(学校)
- ③スケート学習は年数回であること、中古やレンタル店で子どもに合うサイズを探すのが大変であることから、スケート靴のレンタルができるようにしてほしい。(第2学年保護者) (第4学年保護者)  
→学校から積極的に推奨していませんが、個別の対応として児童がスケート靴の貸出し料金を持参し、スケート靴を借りることを認めています。児童が金銭を持参することになりますので、事前に学級担任に連絡・相談するなどして、金銭を紛失することのないように配慮願います。(学校)
- ④中庭での学級対抗ドッジボール大会がなくなったのが残念である。また、中庭を有効に活用できるといいと思う。(第6学年保護者)  
→今後、児童会(保体委員会等)から提案がありましたら、ドッジボール大会を実施することがあるかもしれません。また、中庭の有効活用については、現在検討しているところです。(学校)

## 設問17

### IV 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

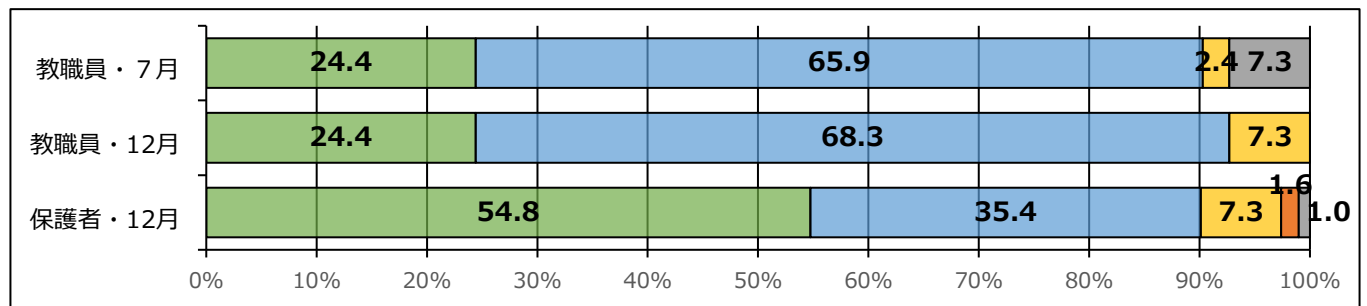
- 教職員「学校（学年、学級）は、授業参観や文書（学校便り、学年便り、学級便り等）により、教育方針や取組、子どもの様子等を伝えているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながらない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

- 保護者「学校（学年、学級）は、授業参観や文書（学校便り、学年便り、学級便り等）により、教育方針や取組、子どもの様子等を伝えているか」

(A:伝えている、B:どちらかという伝えている、C:どちらかという伝えていない、D:伝えていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	24.4	65.9	2.4	0.0	7.3	90.3
教職員・12月	24.4	68.3	7.3	0.0	0.0	92.7
保護者・12月	54.8	35.4	7.3	1.6	1.0	90.1



12月に肯定的な回答をした教職員及び保護者の割合が9割を上回っていたことから、学校から情報提供した教育方針や取組、子どもの様子等が、保護者に理解してもらえたことがうかがえる。今後も、学年・学級間で極端に偏ることなく、様々な手段を用いて適切に情報提供できるように努める。

### 自由記述から

#### 【成果】

※特記事項なし

#### 【課題】

- ①学校の様子を伝えたり、保護者からの要望を聞いたりするために、通知表の所見欄の代わりに面談を実施することを検討する必要がある。(学校)
- ②持ち物などの連絡について、内容がうまく伝わらず疑問に思うことがあることから、もっと分かりやすく記載してほしい。(第1学年保護者)  
→保護者や児童が分かる文言を用いて、分かりやすく記載するよう努めます。(学校)
- ③学級便りが少なく、学級での様子が全く分からない。(第3学年保護者)  
学級便りが少なく、学習の進捗状況や、学級の様子など、授業参観で学校に行くことがない限り何も見えてこない。また、家庭学習をどう評価しているのかが不明で、学習意欲を高めるための努力が伝わってこない。(第3学年保護者)  
→学級便りを含めた様々な手段・方法を用いて、保護者の方々のニーズを踏まえながら、情報提供に努めてまいります。また、家庭学習は、児童の学習内容の定着状況や児童の興味・関心のあることを把握し、今後の指導を改善するために活用しています。児童の家庭学習の量(目標として「学年×10分+10分」と質の向上が図られるよう、適切に評価し、児童の望ましい家庭学習習慣が確立を目指してまいります。(学校)
- ④児童は失敗することを通して学ぶものであることから、大人側が手を差し伸べ過ぎないようにするとよいと思う。また、長い時間をかけて準備された授業の参観ではなく、普段の授業を参観することができたら、素の教員や児童の様子を知ることができてよいと思う。(第6学年保護者)  
→ご意見ありがとうございます。学校が想定した範囲内(児童が心身に大きな障がいや負担を被らない程度)で児童に挑戦させて、自身で調整しながら課題を解決する力を身に付けさせるよう、引き続き指導してまいります。また、設定した日時以外で、ほぼ全ての授業を参観することができますので、ご希望があれば、学校に連絡願います。(学校)

## 設問18

### IV 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

⑤ 学校でのことを知る機会がないので分からないことばかりである。（第6学年保護者）

→各種配付文書で、学校（学年・学級）の指導方針、児童の様子等についての情報提供に努めてまいります。また、授業参観及びオープンスクール、学級懇談、個別面談等で、授業をご覧いただいたり、教員から説明したりする機会を設定していますので、ご活用願います。（学校）

## 設問18

### IV 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

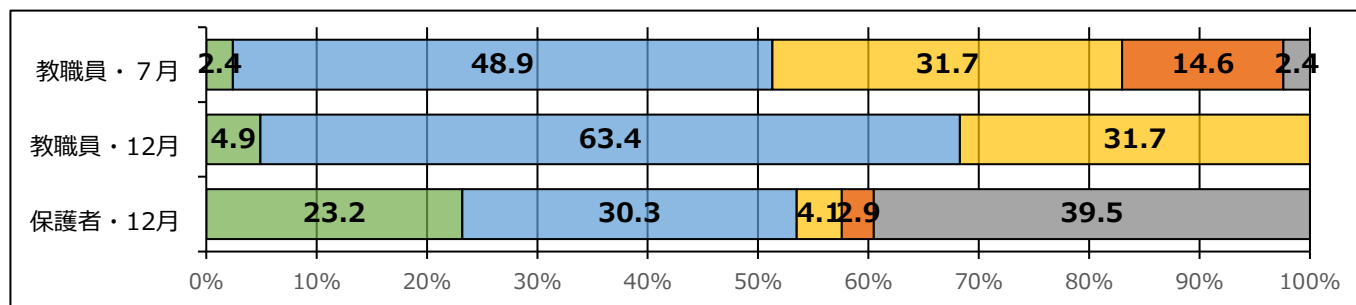
□ 教職員「学校は、働き方改革を推進し、教師がゆとりをもって子どもと向き合う時間を確保しているか」

(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

□ 保護者「学校は、働き方改革を推進し、教師がゆとりをもって子どもと向き合う時間を確保しているか」

(A:確保している、B:どちらかという確保している、C:どちらかという確保していない、D:確保していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A+B
教職員・7月	2.4	48.9	31.7	14.6	2.4	51.3
教職員・12月	4.9	63.4	31.7	0.0	0.0	68.3
保護者・12月	23.2	30.3	4.1	2.9	39.5	53.5



7月と12月を比較すると、12月に肯定的な回答をした教職員の割合が10ポイント以上高くなったことから、取組の成果が表れたことがうかがえる。一方で、12月に「よく分からない・回答できない」と回答した保護者の割合が4割程度あったことから、保護者の理解がより一層図られるよう、学校の働き方改革について継続して周知する必要がある。

### 自由記述から

#### 【成果】

- 働き方改革の機運が高まってきており、できることから取り組めることができた。(学校)  
改善に向けて少しずつ取組が進んでいるように見られる。(学校)
- 全国の小学校で教員不足や教員の労働時間の過多などが問題になっている。教員が心にゆとりをもてるような職場環境がないと、子どもたちの些細な言動に目を向けるということが難しいと思う。そのため、現在、拓進小学校では働き方改革を推進しているとは思いますが、今後も、教職員が働きやすくなるよう、労働時間を短縮するなど、色々な方面から職場環境を整える方法を考え、実行して行ってほしいと願う。(第1学年保護者)  
働き方改革を推進する中で、教職員がよりよい職場環境、配慮された労働時間で業務を進めることができれば、子どもを預ける保護者としてもより安心できる。いつも温かい心配りをいただき感謝している。  
→ありがとうございます。教職員が疲弊し、業務効率が低下しないよう、保護者や地域の理解を得ながら働き方改革を推進してまいります。(学校)
- 児童と全力で向き合い、些細な問題でも関係児童から聞き取り、指導するなど、本当にありがたい学級担任である。同性として、全力で取り組む学級担任を大変尊敬している。また、6年間、どの教員にも安心して任せることができた。学校の素晴らしい教育方針に感謝している。(第6学年保護者)  
学級担任にはいつも感謝している。(第6学年保護者)  
→学校として、学級担任として、何よりうれしいお言葉をいただきました。ありがとうございます。(学校)

#### 【課題】

- 次年度の職員室の消灯開始時刻は18時30分とし、持ち帰り仕事を減らすことも含め、そのために必要な働き方改革を進める必要がある。(学校)
- 子どもと向き合うための時間確保のため、各学年、各校務分掌での来年度に向けて業務削減や日課表変更、時数調整などについて、年度末反省等で案を募り、取り組む必要がある。(学校)



## 設問18

### IV 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

③日課の設定、定時退勤日の設定、児童委員会担当者の配置などを見直し、教員がゆとりをもって業務を進める環境づくりを進めることが大切である。前年度踏襲ではなく、取組が成果につながっているかなどを検討する必要がある。(学校)

④高学年学級担任の負担が大きいことから、業務の平準化を行う必要があると考える。そのため、①特定の教員に担当学年が偏らないように配慮すること、②高学年学級担任の業務を可能な限り削減することなどに取り組む必要がある。(学校)

⑤宿題の作成により、学級担任の授業準備の時間等がなくなってしまうことから、学習内容が確実に身に付いたことを確認することを大切に考えるなら、教科書準拠の教材を購入することが効果的である。ただし、家庭の費用負担増となることを十分踏まえた上で、慎重に検討する必要がある。(学校)

⑥運動会総練習の日に、教員が児童に「座れ」と厳しい態度で指示していた。指示してもなかなかやらない児童に対して、苛立ちをもつ気持ちは分かるが、我が子にこのような対応をされているのかもと思うと不安になった。(第2学年保護者)

→大変申し訳ありません。学校全体で、適切な言葉遣いをするということについて確認したところでした。(学校)

⑦多忙とは思いますが、教員が児童一人一人にしっかりと向き合うように願う。(第3学年保護者)

→児童とじっくり向き合う時間を確保し、ゆとりをもって指導することができるように努めてまいります。(学校)

⑧6時間授業を減らすことで、学習に支障がないのだろうか。本当に、教員の負担が削減されているのかが分からない。(第4学年保護者)

→授業時数を多く確保し過ぎていることに対して、文部科学省、北海道教育委員会、苫小牧市教育委員会から通知等が出されており、このことを踏まえて授業時数を削減していますので問題ありません。また、前頁のグラフにあるように、「学校は、働き方改革を推進し、教師がゆとりをもって子どもと向き合う時間を確保している」と肯定的な回答をした教職員の割合が17ポイント上昇しており、着実に成果として表れていると考えております。(学校)

⑨学級担任の負担が大きいと思うので、副担任や他の教員が二人体制で学級に入ると、児童から学級担任への不適切な言動が減ると考える。困っている学級担任を見て、心配になる児童、不安になる児童、無関心な児童がいるなど様々だと思うが、学級担任が体調崩すのではないかと心配である。(第4学年保護者)

→ご心配をおかけしており、大変申し訳ありません。学校体制として、複数で指導したり、個別に児童を取り出して指導したりするなど、対応しているところです。今後も、学級の状況に応じて、適切に指導・支援してまいります。(学校)

⑩昨年度、宿題の答え合わせをする際、間違えた解答を伝えてきたり、理不尽に注意をしたりする教員がいたそうなので、そういったことがないよう、指導してもらえると幸いである。(第5学年保護者)

→ご心配をおかけしました。昨年度のことですが、当該教員に説明し、改善するように指導しました。(学校)

⑪学級担任が異性の児童に優しくするという話を聞いた。このことを聞いてから、保護者として学級担任に相談しにくくなった。事実であれば改善していただきたい。(第5学年保護者)

→学級担任に差別する意識はなかったものの、そのように感じさせてしまったことを申し訳なく思っております。今後、そのような思いをもつことがないように、言動に気を付けて指導してまいります。同様のことがありましたら、学校に相談願います。(学校)

令和5年度学校評価につきまして、アンケート等にご協力いただきありがとうございました。  
今回の学校評価の結果を踏まえて、学校運営の改善を図り、児童がよりよい教育を享受できるように、努めてまいります。  
今後も、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。



苫小牧市立拓進小学校長 毛利 毅